

飯舘村 in すぎなみ

農業と生活の再生をめざして
自然の恵みを飯舘村からみなさんへ

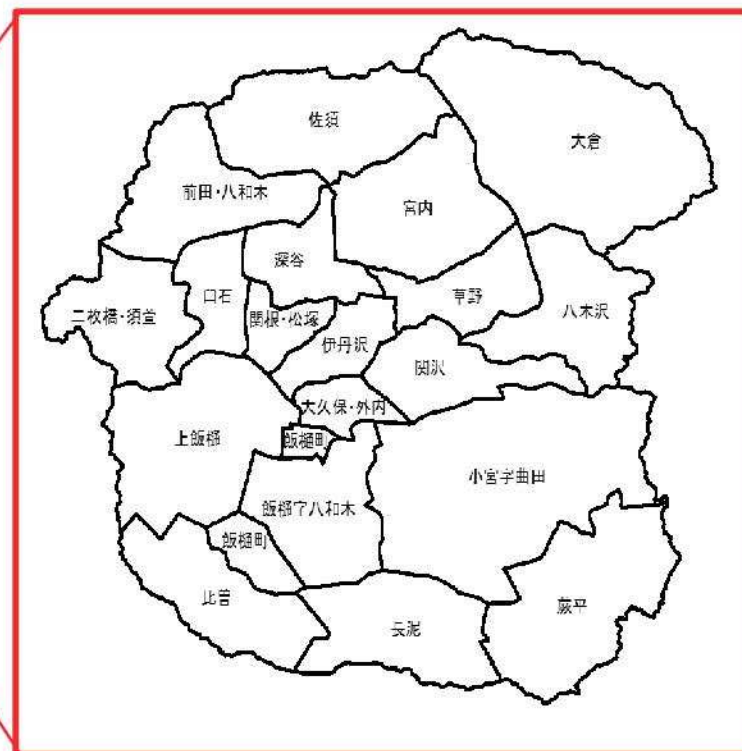
飯舘村の現状から
共感、そして協働を

ふくしま再生の会副理事長 福島代表
飯舘村農業委員会会長 山のこだわりや
菅野宗夫

ようこそ！飯舘村へ



福島県の北部
阿武隈山系の北端に
位置する高冷地



20の行政区
東西15.2km×南北16.8km
面積230.1km²
74%が山林
平均標高 450m

四季折々ー自然豊かな美しい村ー飯舘村



春



夏



秋



冬

大自然の恵みの中で生命を育む暮らし・産業



米作



畜産(飯舘牛)

高冷地のため、たびたび冷害に襲われてきた歴史

→多角化による経営の安定

ブランド牛(飯舘牛)

花卉栽培(トルコキキョウ、リンドウ)

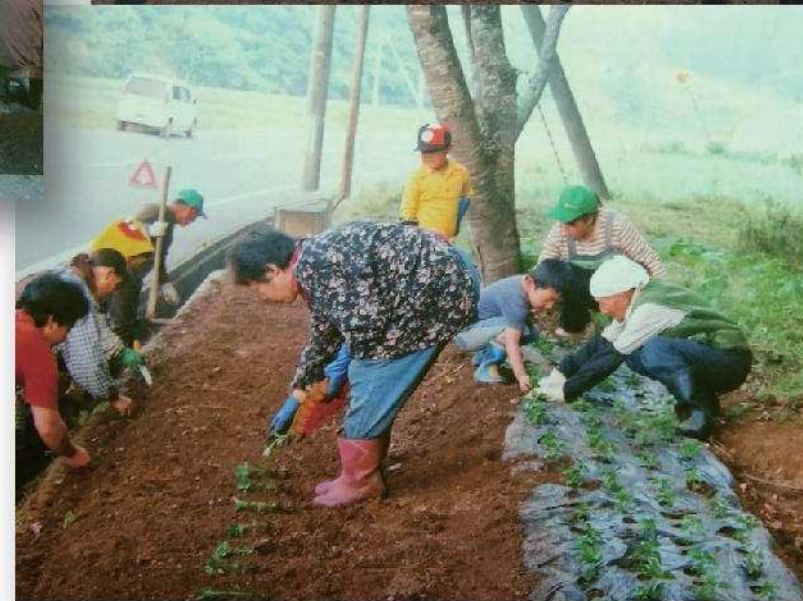
高原野菜の栽培

飯舘村の暮らしを形作ってきたコミュニティ



2010年7月

地区の共同作業
土木工事や植栽も
自分たちの手で



循環型農業の実践

地球の贈り物 大自然の恵みを大事にする

山のこだわりや

農家 菅野 宗夫

〒960-1815 福島県相馬郡飯舘村佐須字滑 8 7



安全な食品の生産 農業従事者の使命として

- 自然農法による米作り
- 畜産(飯舘牛)、野菜(高原野菜)、手作り豆腐などの多角化
- 消費者への直接販売

農産物を消費者に直接届ける活動



築地本願寺で開催していた
「安穏朝市」



地域のコミュニティ活動



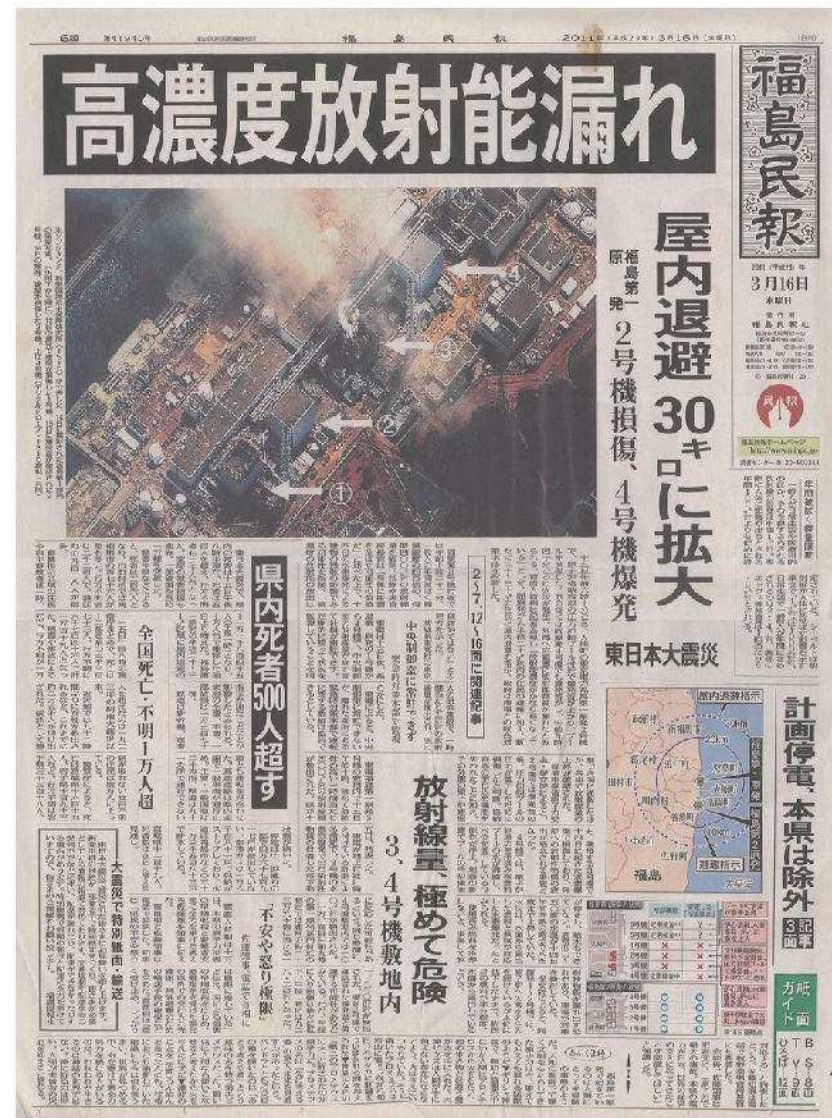
地域のコミュニティ活動



原子力発電所事故



2011年3月13日河北新報



2011年3月16日福島民報

事故後の経緯(2)【飯舘村】

3月16日 ガソリン不足深刻

3月18日 (菅野家)子どもたちを神奈川に自主避難

3月19日 集団避難(栃木県鹿沼市へ509人)
自主避難合計3,700人

3月20日 原乳出荷自粛(牛乳ヨウ素
5,200Bq/kg)
簡易水道摂取制限(水道水ヨウ素
965Bq/kg)

3月22日 飲料水配布開始(村職員・自衛隊
100トン。1人1日3リットル×8日分
を各行政区の集会所に)



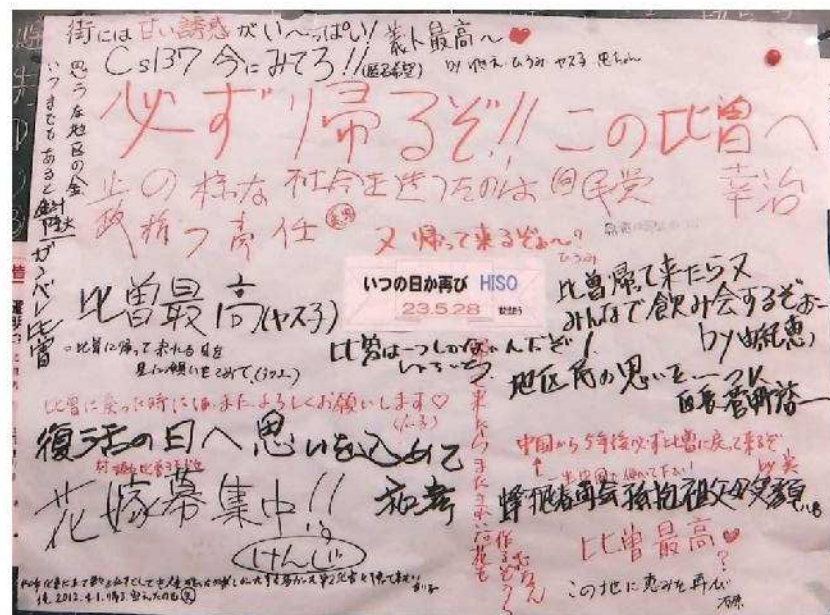
事故後の経緯(7)【飯舘村】

2011年

5月～6月 避難生活開始

村を離れる村民の寄せ書き(比曽地区)

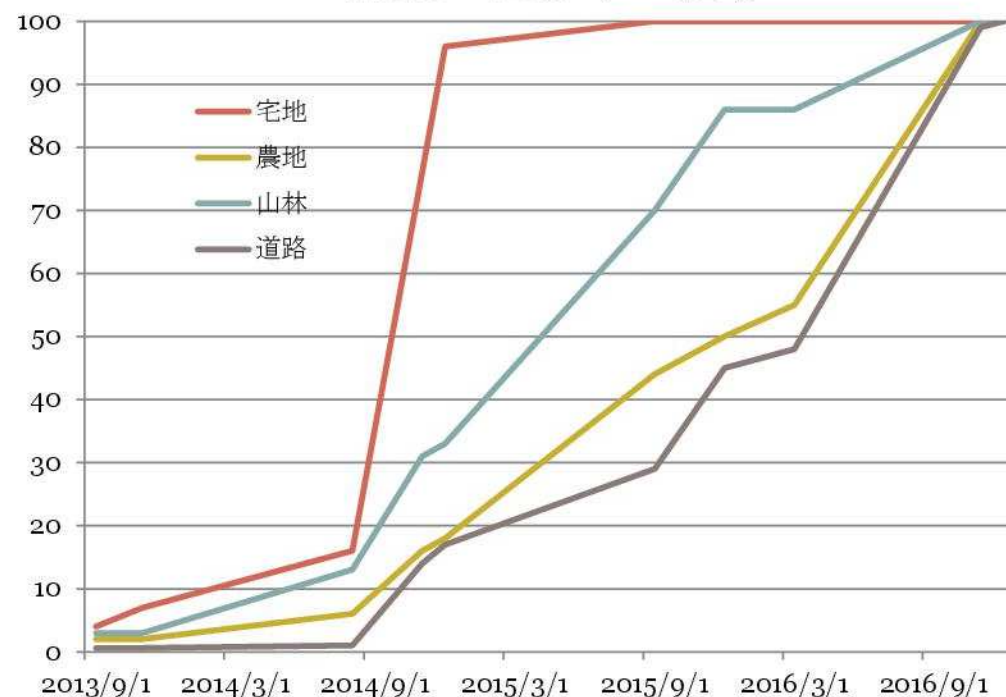
子どもはスクールバスで通学



事故後の経緯(10)【飯舘村】

2014年～ 本格的な除染作業開始

除染の進捗率の推移



除染対象に対する達成率であることに注意。
実際には、山林のほとんどは除染されていない。

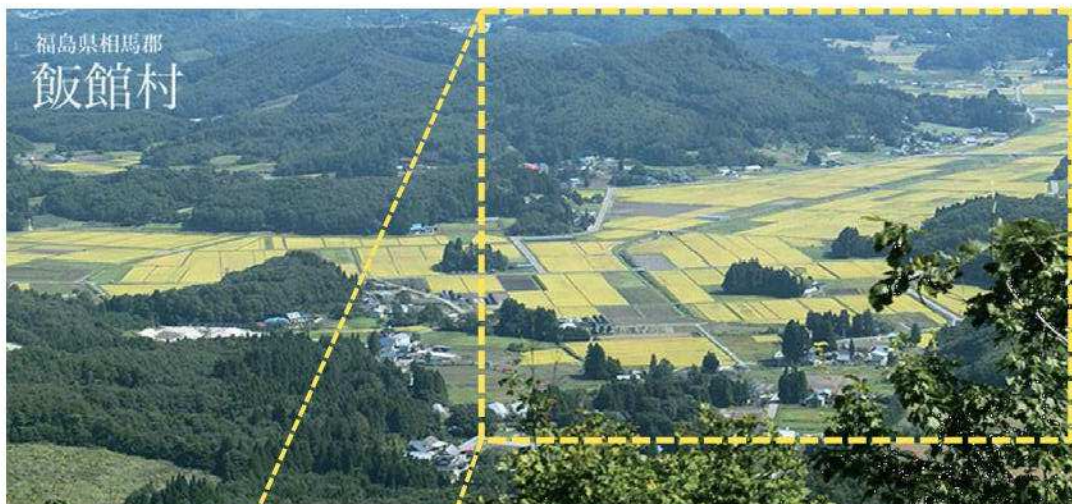


農地の現実 優良農地は除染土壤の仮(々)置き場に



除染は復興のための手段であるはずだが、
それが復興の妨げになりかねないという矛盾。

「美しい村」の現在は



「日本で最も美しい村」に掲載されている飯舘村の写真。



上の写真と同じ場所から撮影した現在の飯舘村の写真。

美しい田んぼだった農地に除染土壌が積み上げられている。

事故後の経緯(11)【飯舘村】

2017年

3月31日 帰還困難区域を除き一斉解除

ただいま、ふるさと



大久保・外内地区の空撮

平成29年3月31日午前0時
飯舘村の避難指示が解除されました

帰還困難区域となっている長泥地区を除く

3月31日の午前0時、帰還困難区域の長泥地区を除いて、村の避難指示が解除されました。同時に、飯舘村の避難指示区域でも、帰還困難区域を除いて、4月1日までに、避難指示が順次解除されます。長い長い避難が徐々に収束し、新しい生活への移行が進んでいきますが、その道中にも、また時間がかかります。避難指示が解除されたとはいえ、決して元通りではない状況の中で、暮らしを再建していくためには、いろいろな課題があります。村は、これまで進めてきた復興事業を足掛かりに、一つひとつの課題を着実に乗り越えながら、新しい村づくりを進めていきます。村民の皆さんの暮らしの再建、なりわいや生きがいを支援する事業にも、力を注いでいきます。



浜谷公園通商店街から村に贈った、村民の帰郷を待っていた形光八字公の像。3月31日には避難指示解除の記念式典が行われた交流センターで法政省を搬入しました。(写真は寄贈を受けた平成25年のようす)

3
平成29年4月号 広報いいたて



いいたてむら おかえりなさい式典

「広報いいたて」4月号

飯舘村の今は



いいたて までいな復興計画(第5版)

いいたて までいな復興計画
(第5版)

ーネットワーク型の新しいむらづくりー



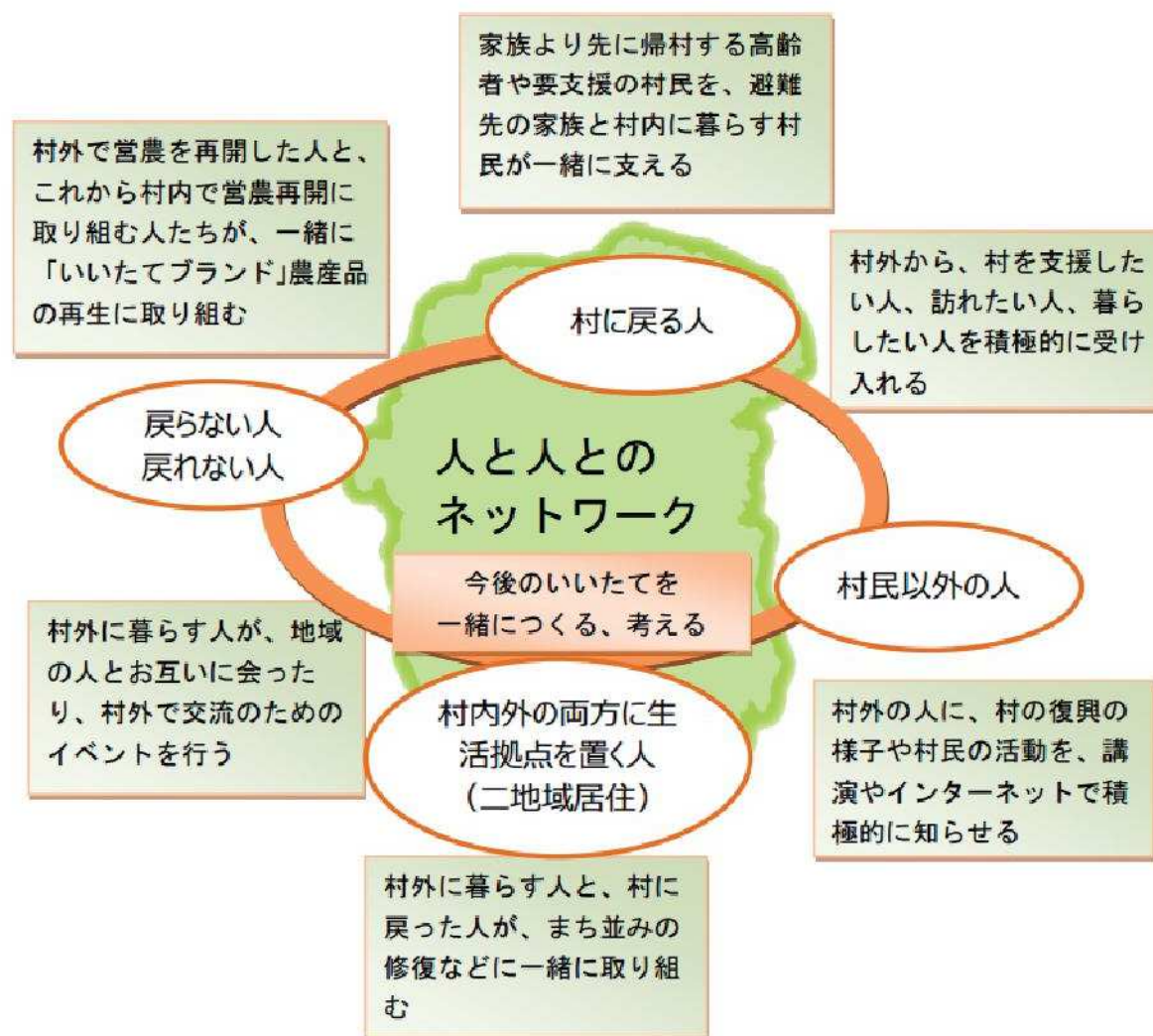
「平成26年度 草野・飯舘幼稚園はっぴよう会」

平成27年6月17日
飯 舘 村

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp/saigai/?p=1406>

いいいて までの復興計画(第5版)

ネットワーク型の新しいむらづくりのイメージ



2017年避難指示解除 ようやく本格的な田植え



酒米栽培にチャレンジ(2年の実証を経て)



天候が心配だが、醸造～来春に新酒で

写真左:奥の田(黄色くなっている)に比べて実りが遅れている酒米

写真右:小林稔さんが避難中に作ったお米で醸造した「おこし酒」に負けない酒を

野菜のハウス栽培

養液点滴栽培によるレタスの収穫。
集約型のハウス栽培の取り組み。



手前(右)「宗夫ハウス」
奥(左)「明大ハウス」



「宗夫ハウス」の
レタス栽培

(土壌を使用せず
軽石培地で
栽培)



「永徳ハウス」のトマト栽培

明大ハウス

「明大ハウス」では、除染後の土壌を使用した栽培(養液土耕栽培)を試みている。



明大ハウス ほうれん草

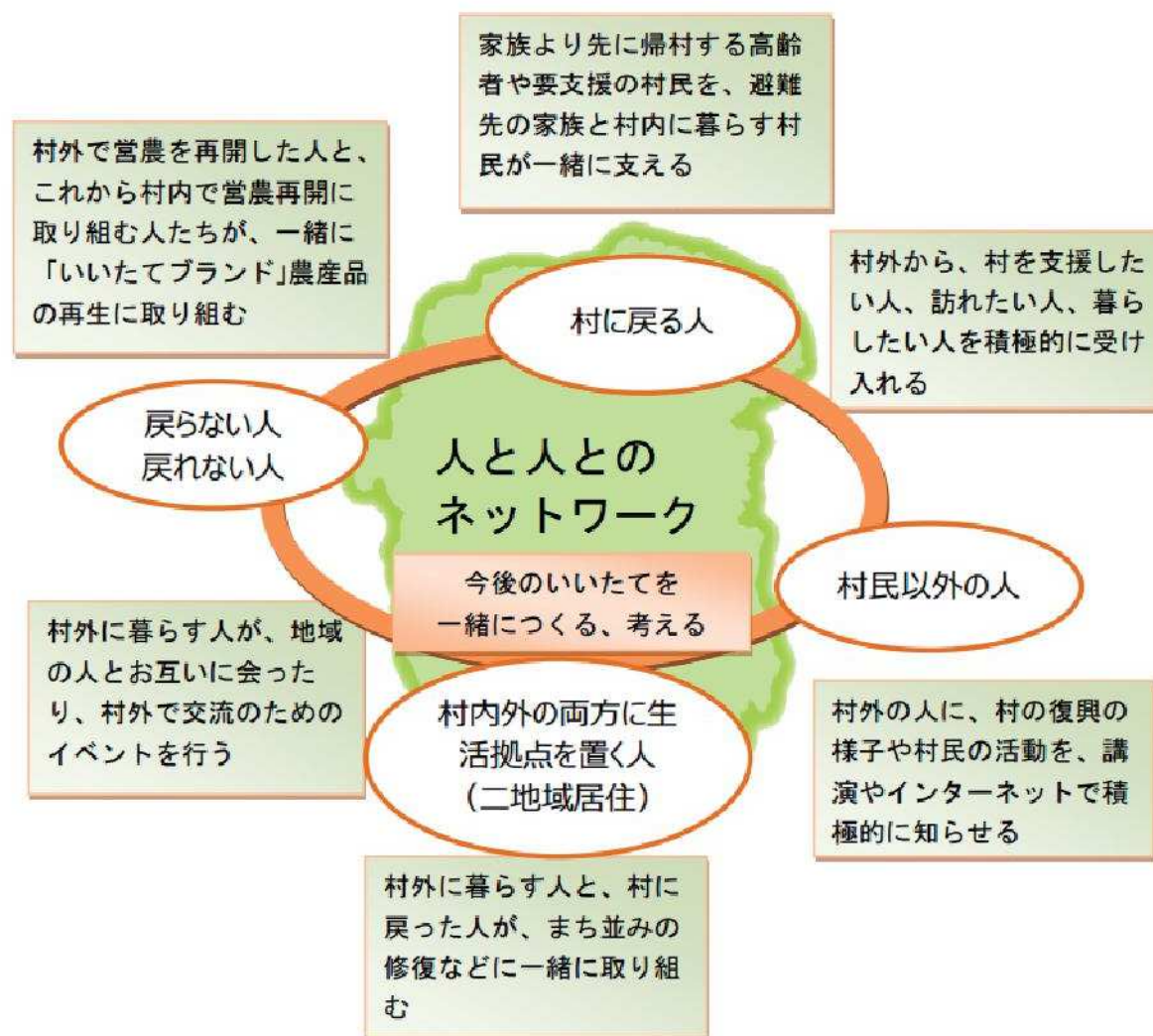


営農再開ハウス 産学民連携



いいいて までの復興計画(第5版)

ネットワーク型の新しいむらづくりのイメージ



村民以外の人とのネットワーク



埼玉県立鴻巣高校
福島復興支援ボランティア



“SGRAスタディツアー”
アジア・アメリカ・アフリカ・ヨーロッパ
各国から

村民以外の人とのネットワーク



(株)富士通SSL
(ソーシャルサイエンスラボトリ)

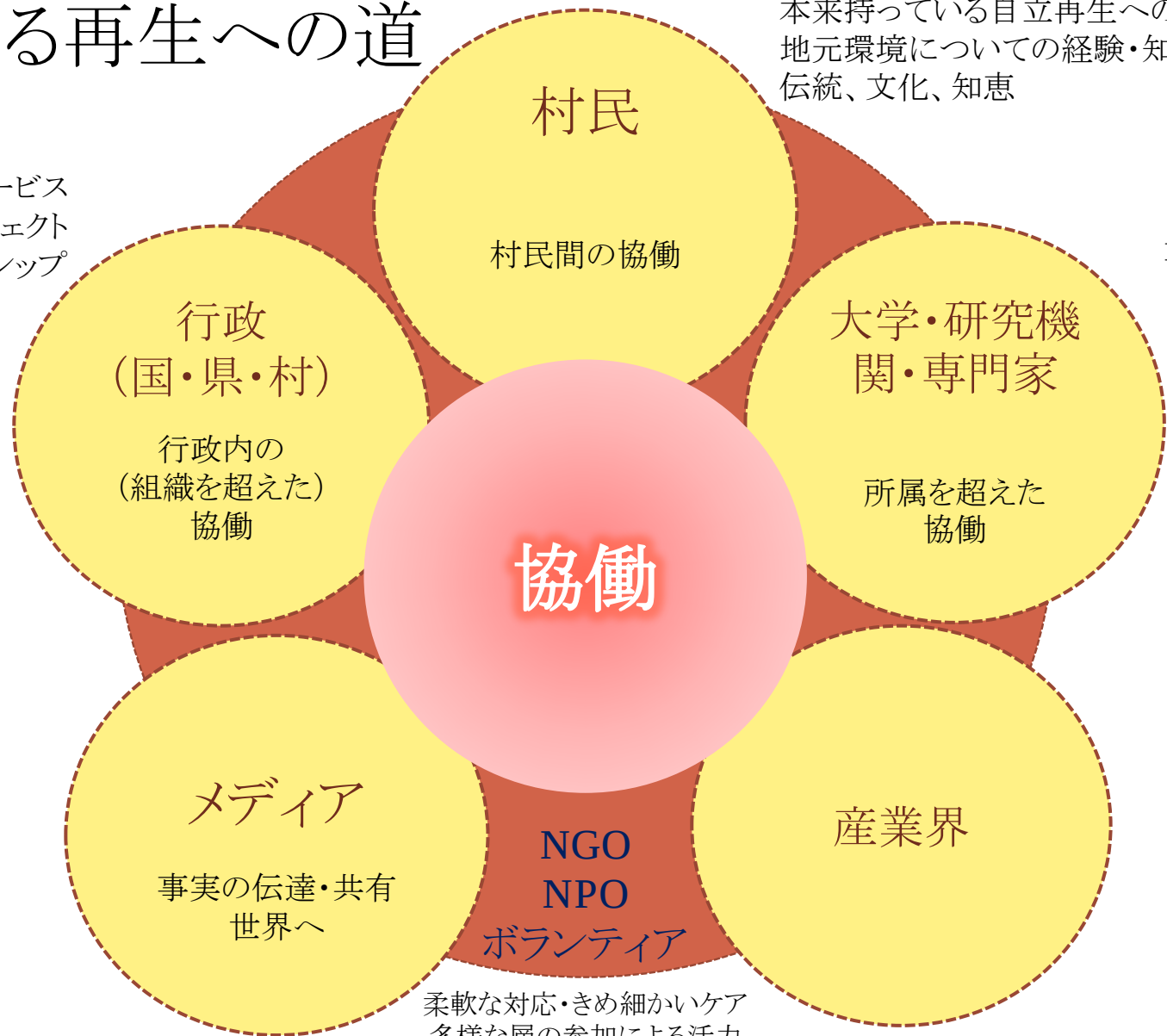


協働による再生への道

本来持っている自立再生への力
地元環境についての経験・知識・技術
伝統、文化、知恵

基盤となる公共サービス
大規模なプロジェクト
ビジョンとリーダーシップ

専門知識
技術
人脈



柔軟な対応・きめ細かいケア
多様な層の参加による活力
専門知識・技術、職業経験、人脈、広い視野

飯舘には 「今だから学べること」がいっぱい！

飯舘村民歌

夢大らかに

作詞 小林 金次郎
作曲 石河 清

一

山 美しく
水 清らかな
その名も飯舘
わがふるさとよ
みどりの林に
小鳥は歌い
うらら春陽に
さわらび萌える
あゝわれら
今こそ手と手
固くつなぎて
村を興さん 村を興さん

二

土 よく肥えて
人情ある
その名も飯舘
わがふるさとよ
実りの稲田に
陽は照りはえて
続く阿武隈
山幸歌う
あゝわれら
夢大らかに
ともに励みて
村を富まさん 村を富まさん

農業体験

オナー制

民泊・農泊

週末農業

移住

【終わりに伝えたいこと】

どうぞ、みなさん！
今の生活を振り返ってみて...

本当にこれでいいの？
恵まれた便利な社会の中で、
もっと大事なものがあるんじゃないの？
今も大事だが、次の世代に
なにを残すの？ 伝えるの？

今すぐに出来るものが目の前にもあると思います
(原発事故で普段の生活を奪われたひとりとして)
一緒に考えましょう